

HEALTH CARE

The Newsletter of the Japan Health Care Dental Association

vol.20 no.1

(年間5回刊行・通巻110号)



日本ヘルスケア歯科学会

事務局 東京都文京区関口 1-45-15-104

Tel. 03-5227-3716

Fax. 03-3260-4906

URL <http://www.healthcare.gr.jp>

E-mail : center@healthcare.gr.jp

編集代表 田中正大

編集制作 有限会社 秋 編集事務所

学会入会金 歯科医師 5,000円

その他 3,000円

学会年会費 歯科医師 12,000円

その他 3,000円

郵便振替口座 00190-7-407895

名義 一般社団法人日本ヘルスケア歯科学会

銀行振込口座 三菱東京UFJ 江戸川橋支店

普 0051809

名義 一般社団法人日本ヘルスケア歯科学会

重要なご案内

● 以下の同封物をご確認ください。

1. 2017年度ステッカー

2. 2017年度会費振込用紙

当学会の会計年度は、1月から12月までです。2017年度会費の払い込み用紙を同封いたしましたので、お近くの郵便局からお早めにお払込みくださいますようお願い申し上げます(行き違いになりましたらご容赦ください)。

3. 東京ベーシックセミナー案内

4. ヘルスケア型診療導入セミナー案内

催しものご案内

① 電子タバコに健康被害はあるか?

オピニオンメンバー会議併催セミナー

日時: 2017年3月5日

会場: 東京八重洲ホール地下ホール

② 歯科衛生士育成 基礎コース

日時: 2017年3月19・20日

会場: 太陽歯科衛生士専門学校

③ 第1回東京ベーシックセミナー

日時: 2017年5月21日

会場: 東京八重洲ホール地下ホール

④ 第14回認証ミーティング

日時: 2017年7月2日

会場: 千里ライフサイエンスセンター

⑤ ヘルスケア型診療導入セミナー

日時: 2017年7月30日

会場: ハーネル仙台

ヘルスケアミーティング2017 「変化を診るメンテナンス」	随筆3 家庭教師	p.7
事務局から	フォーラム	p.8
告知板	ヘルスケアミーティング2017 ポスター募集	p.15
ウイステリア Pro とアポイント管理職Ⅲ	東京ベーシックセミナー案内	p.16
	第14回 認証ミーティング案内	p.16

ヘルスケアミーティング2017 「変化を診るメンテナンス」



杉山精一 (日本ヘルスケア歯科学会 代表)

皆さんの診療室では、来院される患者さんに対して「変化を診るメンテナンス」は実現できていますか? メンテナンスは行っているけれど、変化を診るメンテナンスってどういうことだろう、と思う方もいると思います。その意味をちょっと考えてみましょう。

「変化を診る」には、前回の来院と比較できる記録が必要です。患者さんの生活記録、歯周組織検査、口腔内写真、ICDASによる歯面の記録、エックス線検査による脱灰の進行や歯槽骨の状態などが、経時的にわかりやすく整理されていないとチェアサイドで変化の有無の判断はできません。また、患者さんの年齢や生活背景を把握したうえで「状況を考えて診る・目的をもって診る」意識がないと、適切な診査ができません。小児期、成人、高齢期それぞれの時期において様々なことが口腔の健康に影響を及ぼすので、それらを踏まえて「診る」ことが必要になります。

「変化の見落とし」はメンテナンスで、絶対に避けたいことです。う蝕も歯周病も初期病変は多くが無症状ですが、これを見落としとして進行した状態になってしまうと歯科医院と患者さんの信頼関係が揺らぐことになります。しかし、見落としを避けるために過剰な検査を行ったり、頻繁に来院を促すことは、好ましいことではありません。経営優先ではないかと疑念をもたれることもあるかもしれません。どのような状況に、どのような診査・治療が適切かの判断は難しいですが、最新の診療ガイドラインや研究成果にも目を通しておく必要があります。さらに、臨床データをデータベースに整理していくと、自分の医院の臨床を客観的に振りかえることができ、適切だったかどうかを検討することが可能になります。

「診るメンテナンス」の「診る」には、診査と診療の両方の意味があります。メンテナンス診療では、う蝕も歯周病もバイオフィルムが相手です。昨年のヘルスケアミーティングでは、バイオフィルムはどのような細菌から構成されているかを取りあげました。今年は、バイオフィルムが何をしているかを知るために、この分野の研究で世界的に活躍している高橋信博教授(東北大学歯学部)に最新の研究成果をわかりやすく解説していた

だきます。さらに近年増加している多数歯残存高齢者で問題となる根面う蝕について、歯科保存学会のう蝕治療のガイドラインメンバーの福島正義教授（新潟大学歯学部）に根面う蝕の病因論から適切な診療方針までを講演していただきます。

臨床での実践的な内容については、1日目は、歯周病のメンテナンスを藤木省三さんを座長に高橋 啓さんと千草隆治さ

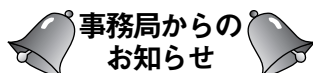
んを中心に、2日目は、杉山が座長で、齊藤 仁さんと田中正大さんに発表してもらう予定で準備を進めています。例年どおり1日目には、交流会と懇親会も開催しますので、多くの医院がスタッフとともに秋葉原に集まって「変化を診るメンテナンス」について楽しく学ぶミーティングにしましょう。



ヘルスケアミーティング 2017

日時：2017年10月8・9日（日・月祝）

会場：秋葉原コンベンションホール（東京・千代田区）



● アポイント管理職用追加日付について

2018～20年の追加日付を学会ホームページにアップしました。アポイント管理職 3.0 の CD-Rom に収録されている追加日付（2019年）の8月12日に「振替休日」が洩れていました。取り込み前にテキストを修正してご利用ください。

◆ 新入会 法人会員

アクセス（佐賀県）代表：森 一弘
ウイステリアのサポート・開発協力等をしている業者



敬称略

○ヘルスケア型診療導入セミナー

真のホームデンティストを目指そう！

日時：2017年7月30日（日）

9:30～16:30

場所：ハーネル仙台

対象：歯科医師向け

参加費（昼食代込）：

開業医 15,000円

勤務医・医局員 5,000円

学生・研修生・大学院生 1,000円

特別講演：「う蝕減少社会における歯科医院経営の健全化について」相田 潤（東北大学 准教授）

○スタッフと学ぼう！

ヘルスケア型診療導入セミナー（仮題）

日時：2017年11月26日（日）

場所：ハーネル仙台

参加費（昼食代込）：

開業医 15,000円

勤務医・医局員 5,000円

スタッフ 3,000円（スタッフのみ参加の場合1人目は15,000円）

学生・研修生・大学院生 1,000円

内容：歯科衛生士によるプレゼンなど

詳細は次号ニュースレターにて

○兵庫ヘルスケア& K-WAVE 講演会

日時：2017年8月27日（日）

場所：三宮コンベンションセンター

503号室

演者：相田 潤（東北大学 准教授）、岡 賢二（吹田市開業）、藤木省三（神戸市開業）

参加費：6,000円（昼食代込み）予定。

詳細は次号ニュースレターにて

問い合わせ：丸山歯科医院

maruyama.dental@icloud.com

非会員の参加可能です。ぜひお知り合い

をお誘いのうえご参加ください。

○第2回ヘルスケア実践セミナー

日時：

PART 1 2017年9月17・18日（日・月祝）

17日午後～18日正午

PART 2 2018年2月11・12日（日・月祝）

11日午後～12日正午

PART 1, PART 2 とも全日程ご参加ください

「ヘルスケアの実際がよく理解できた」

「仲間ができた」「いいアドバイスがもらえた」と好評を博した宿泊型セミナーの2

回目です。

場所：コスモスクエア国際交流センター

（大阪）

参加費：60,000～70,000円（予定）

※参加費に宿泊代・食事代を含む。

お問い合わせ：日本ヘルスケア歯科学会

事務局（center@healthcare.gr.jp）

○歯科衛生士育成プログラム

基礎コース

日程（予定）：9月23・24日（土祝・日）

1月7・8日（日・月祝）

3月3・4日（土・日）

場所：神戸常盤大学（神戸市長田区）

東京地区で、検定会2回、相互実習研修会

2回、関西地区で、検定会1回の予定。

詳細は次回ニュースレターにて

○歯周病に対する新しいコンセプトのセミナー

主催：杉山精一

日時：2017年4月9日（日）

13:30～16:30

場所：八重洲ホール 302号室

定員：36名

演者：大島光宏（奥羽大学薬学部 教授）

演題：歯周炎関連線維芽細胞（PAFs）に基

づいた新たな歯周炎診断と治療

参加費：5,000円（当日受付にてお支払い

ください）

申込：メール（限定）にて。件名を「大島

セミナー」として、「参加者氏名」「メール

アドレス」「医院名（領収書用）」「住所」

を明記のうえ masaki@okamotoshika.jp（岡

本昌樹）宛

締切：3月25日（土）

ウイステリアProとアポイント管理職を 使ってみよう！ III (その7)



藤木省三 (日本ヘルスケア歯科学会副代表・神戸市開業)

基本的な注意

- *ウイステリアなどのファイル名を変えないでください
- *バックアップは毎日必ずとりましょう
- *バックアップが必要なファイルおよびフォルダ***
 - ・ウイステリア Photo50 ・アポイント管理職 3
 - ・来院履歴 5 ・唾液量 5 ・拔牙履歴 5 ・処置履歴 5
- ・PerioAssistant5 ・XRAssistant111
- ・(NewFile) フォルダ (ウイステリアに取り込んだ画像の保存フォルダ)

※旧バージョンのウイステリアをご使用の場合はファイル名が一部異なります。

歯周病画面を活用してみよう

今回は歯周病画面について説明します (図 1)。う蝕画面と同じように、メンテナンスやメモの関連フィールドや拔牙入力、処置入力のフィールドが配置されています。

歯周病画面では歯周治療に関する様々なデータを記録することができますが、記録には二つの方法があります (図 2)。

- A) ウイステリアに精密検査データを入力して、それを PerioAssistant に蓄積していく方法
- B) PerioAssistant ですべてのデータを記録し、その中から初診, 再評価, 最新のデータをウイステリアで表示させる方法

A) の方法は、紙のプロービングチャートを使用していたり、歯周組織検査のデータを他のソフトウェアで管理している場合に適します。ウイステリアへの入力、プロービングや BOP の歯面数を入力するだけで済むため簡便な入力が可能です。

注意点は、ウイステリアが開発された当初は 4 点法が一般的であったため、その時のデータと整合性を保つために今でもウイステリアの画面では 4 点法が基準になっています。ですから、6 点法で歯周組織検査をおこなった場合は、隣接面の二つの数値の内大きい方を採用してカウントしてください (図 3)。



図 1 歯周病画面

■ PerioAssistant

《ウイステリア Pro3.0》より《PerioAssistant》という機能が加わりました。《PerioAssistant》を使用することですべてのデータを蓄積することが可能です。また、精密検査データをより視覚的に出血点、プロービングの深さ、出血点 4-6mm・7mm 以上の割合を表示できます。《PerioAssistant》の使い方は次の 2 通りになります。

A

ウイステリアに精密検査データを入力し、それを《PerioAssistant》に蓄積していく。

○ 詳細 51 ページ

利点: すべての回数のデータを蓄積可能。
出血点などのグラフを使い変化をみる事ができる。

B

《PerioAssistant》ですべてのポケットデプス、出血点などを入力し、そのデータをウイステリアに表示させる。○ 詳細 59 ページ

利点: 詳細なデータをパソコンで管理できる。
イラスト画面で患者に視覚的に見せることができる。
A と同様に出血点などのグラフを使って変化をみる事ができる。

図 2 PDF マニュアル 50 ページ

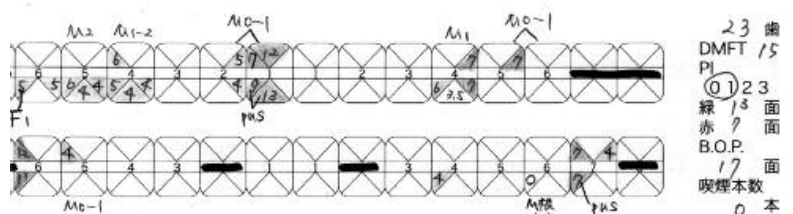


図 3 6 点法で検査した場合のカウントの例

ウィステリアの歯周病画面には、「初診」「再評価」「最新」の3回のデータしか表示はされていませんが、PerioAssistantに全ての数値データが記録されているため、①の「Graph」ボタンをクリックすることで、プロービング値やBOPの変化をグラフ化して見ることが可能です(図4)。

B)の方法は、歯周組織検査をおこなう度に、②のボタンをクリックしてPerioAssistantを呼び出して入力します(図5, 6)。この方法のメリットは、すべてのデータをデジタルで記録できることです(図7)。図8, 9は現在開発中のPerioAssistantの画面ですが、データをデジタル化することで、患者さんへの資料など今後活用の幅が広がります。

③は歯周治療をおこなう際に不可欠な喫煙情報の入力フィールドです。図10は当院の初診時に用いている歯磨きや喫煙に関する問診票です。このような情報を使って喫煙本数を計算します(図11)。喫煙情報を入力すると、自動的に喫煙開始年齢と喫煙経験のフィールドに「あり」が入力されます(図12)。

日本ヘルスケア歯科学会が毎年おこなっている調査1事業でも、この喫煙関連の情報は非常に重要な項目ですので、ぜひ初診時に正しく喫煙に関する問診をおこなって入力していただければと思います。

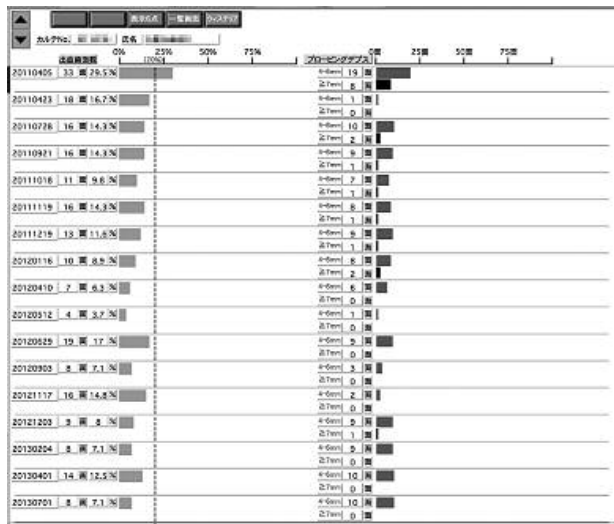


図4 2011年4月5日に初回の歯周組織検査をおこなった。再評価では、7mm以上の歯周ポケットはなくなり、4-6mmの歯周ポケットも1面になった。その後、2012年5月まではBOPも下がり続け良い状態が続いていたが、その頃に体調を崩し精神的に不安定になり数値が安定しなくなってきた。継続的に記録を取ることで、患者の様々な変化を読み取ることができるようになる。

図5 プロービング値, BOP, その他のデータの入力画面. プロービングの値とBOPはソフトキーボードを用いて入力する

図6 PCR, 歯牙の動揺度を入力する画面

図7 6点法で入力したデータを表示する画面プロービングの値は、4-6mmが緑、7mm以上が赤で表示される。出血がある部位は赤丸が表示される

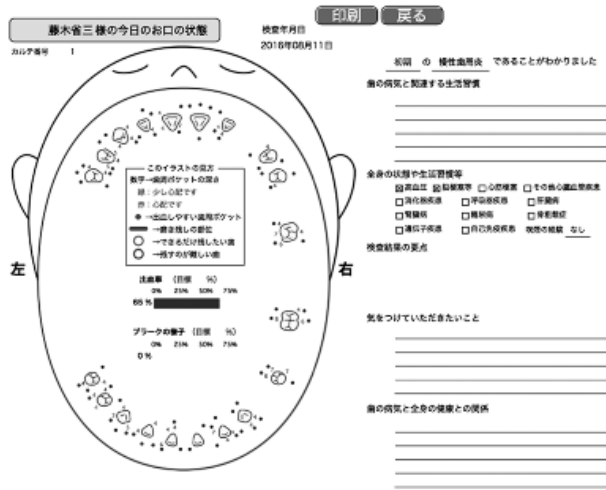


図 8 現在開発中の画面 (変更の可能性が有ります)

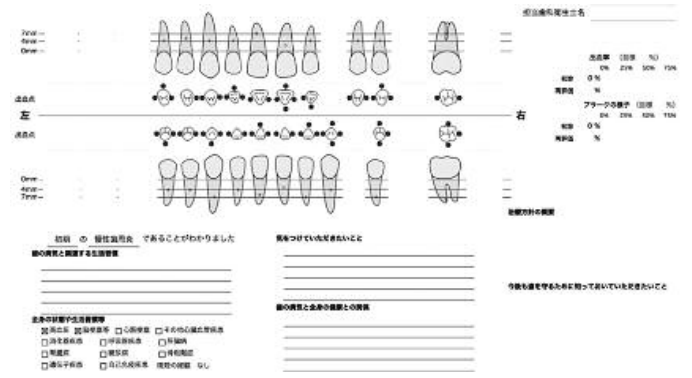


図 9 現在開発中の画面 (変更の可能性が有ります)

[現在の歯みがきの習慣についてお尋ねします] お名前 _____

- 歯みがきはいつ、どのくらいしていますか(いくつでもチェックしてください)
起床後(分間) 朝食後(分間) 昼食後(分間)
夕食後(分間) 就寝前(分間) 間食後(分間)
- 夜の歯みがき後に飲食しますか (しない する時もある)
- 歯みがき剤を使っていますか(毎日使う 時々使う 使わない)
- 歯みがき剤はフッ素入りですか(はい いいえ わからない)
- どのような道具を使っていますか
歯ブラシ 糸ようじ(デンタルフロス) 歯間ブラシ 電動歯ブラシ
うがい薬(デンタルリンスなど) その他()
- 歯ブラシはどれ位で交換しますか (日 あるいは 月)

[今までに歯科医院で歯みがきについての指導を受けたことがありますか]
はい いいえ

[歯間ブラシや糸ようじ(デンタルフロス)の指導を受けたことがありますか]
はい いいえ

[今までに歯科医院で歯石を取ってもらったことがありますか]
はい いいえ

それはいつごろですか (月 前 あるいは 年 前)
 歯石を取ってもらった後に何か不都合はありましたか ()

[歯周病の進行を速める喫煙の状況についてお尋ねします]
 ①タバコをすったことがありますか?
はい (歳頃から) 「はいの方」
いいえ

②一日あたりだいたいどのくらいの本数をすわっていましたか?
 歳~ 歳 本
 歳~ 歳 本
 歳~ 歳 本
 歳~ 歳 本

③現在もすっていますか?
はい (一日約 本) いいえ

④受動喫煙について
 同居している家族の方、職場、その他毎日のおつき合いの中で、
 他人のタバコの煙をよくすっている方だと思いますか?
大変思う 思う 思わない わからない

図 10 当院で用いている初診時に書いていただく、歯磨き習慣と喫煙習慣を尋ねる問診票

喫煙蓄積本数

18 歳 ~	35 歳	1 日	10 本
36 歳 ~	42 歳	1 日	20 本
歳 ~	歳	1 日	本
歳 ~	歳	1 日	本
歳 ~	歳	1 日	本

計算
 喫煙蓄積本数 105,850 本 戻る

図 11 喫煙総本数を計算するための画面

歯周病の分類 慢性歯周炎 残存歯数 28 歯 進行度 計測 中等度 リスクファクター 計測 0

ブローキングデプス ≤3mm 80 面 4-6mm 17 面 ≥7mm 15 面


喫煙蓄積本数 計測 105,850 本 喫煙開始年齢 18 歳 喫煙の経験 あり 禁煙開始年齢 歳

出血歯面数 10 面 リコール状況

6点法の場合 ブローキングデプス ≤3mm 127 面 4-6mm 25 面 ≥7mm 16 面

出血歯面数 12 面

図 12 計算画面から戻ると、自動的に喫煙蓄積本数と喫煙の経験が「あり」と入力される。初診時に既に禁煙している場合もあるので、その際には「禁煙開始年齢」のフィールドに禁煙した年齢を入力する



ウイステリアネットワーク設定の注意点 1

森 一弘 (アクセス代表)

ウイステリア本体の設定

今回は、ウイステリアをネットワークで使う場合の設定で、やってはいけないことについて確認しておきたいと思います。

既にほとんどのウイステリアユーザーの方は、ウイステリアをネットワークで使っておられると思いますが、ウイステリアを2台以上のマシンで使いたい場合は、ネットワークで使うための設定が必要になります。2台以上で使う状況になったときには、1台のマシンをサーバーとして稼働させることになり、パソコン1台で使っていたときは決定的に設定が違ってきます。

ウイステリア本体の設定
 ウイステリアの設定は大きく分けると、ウイステリア本体の設定と、画像フォルダの設定の二つが必要です。今回まずは、ウイステリア本体の設定についての注意点を紹介します。私は日頃、ウイステリアをネットワークで使う場合、FileMakerServerの導入をおすすめしていますが、今回はFileMakerServerを使わない場合の設定になります。

最初に正式な設定方法は、まずサーバーとなるパソコンでウイステリアに関わるファイルを全部開きます(「開始」ファイルを開くと全部が連動して開きます)。メニューバー「ファイル」→「共有設定」→「FileMaker クライアントと共有」を選ぶと、図1のような画面が開くので、上部「ネットワーク共有」の「オン」にチェックをいれて、「OK」をクリックします。そしてこのとき、もうひとつのポイントとしてサーバー機のIPアドレスを「固定」しておいてください(注、サーバー側の設定は以上です)。

次にクライアント機でウイステリアを開くときは、前述の設定が終わったサーバー機側で、ウイステリアに関係するファイルを全部開いた状態にします。その状態でクライアント機のFileMakerProを開いて、メニューバー

から、「ファイル」→「共有ファイルを開く」を選ぶと、図2のような画面が開くので、ここから「ウイステリア Photo50」をクリックして開きます。

以上がネットワークで使用するときの正式な手順です。

やってはいけないファイル共有

次に、絶対にやってはいけない方法ですが、サーバー機の「ウイステリア Pro50」のフォルダを共有設定し、他のクライアント機でその共有フォルダを開いて、そこに見えるウイステリアのデータを直接開く行為です。これは一般的なネットワークでのファイル共有方法で、ワードやエクセルなどのデータをこのように管理されている医院も多いと思われるのですが、ウイステリアをネットワークで使う場合にこの方法を

使ってはいけません。

私がこれまでウイステリアサポートに携わってきて、何例かこのパターンに遭遇したことがあります。これは主に、「FileMaker はよくわからないけど、パソコンネットワークにはそこそこ詳しいという業者の方が、ご好意でウイステリアのネットワーク設定をしてくださった」という事例で、この状態に設定されたことが多かったようです。

実はこの間違った設定でもウイステリアが動作します。ただし正式な方法でないため、データがきちんとサーバーに保管できていなかったり、特定の動作でエラーをおこしたりするリスクがあります。完全に動かないわけではないところが逆にやっかいなので、現在 FileMakerPro でウイステリアネットワークを動かされているところは今一度ご確認ください。

簡単にご説明したとはいえ、パソコンの設定等にある程度精通していないと、やはり難しい内容ではありますので、あまり自信のない方は、FileMaker とネットワークに精通した専門業者が、身近な経験者の方にご相談をされることをお奨めします。

今回は画像フォルダの共有設定についてご説明いたします。また、2017年より弊社ウイステリアサポートホームページ(URL <https://www.access-dental.jp>)をスタートさせております。できるかぎりの情報公開をしていきますので、ウイステリア公式ホームページとあわせてご参照ください。

(注) IPアドレスの「固定」はご使用のパソコンのネットワーク設定をご確認ください。「ウイステリア」での設定ではありません。

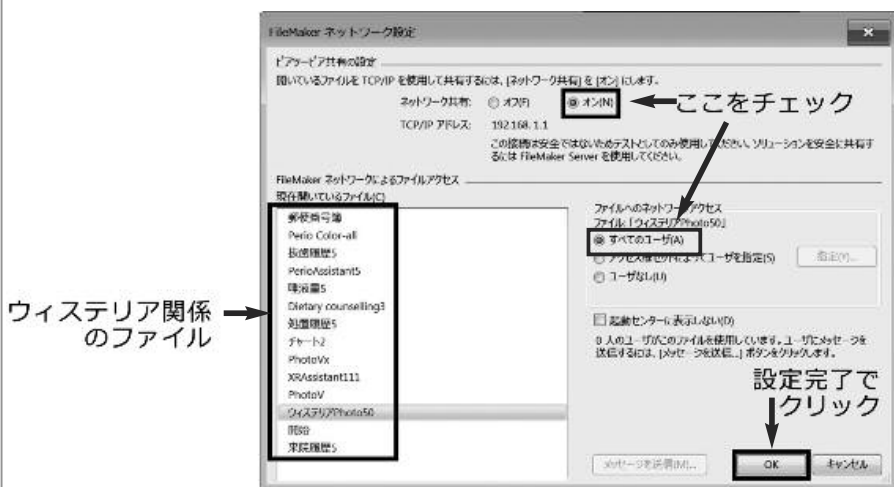


図1 FileMaker ネットワーク設定ダイアログ



図2 「共有ファイルを開く」→「起動センター」ダイアログが表示される

※図で表示の画面は Windows 版 FileMakerPro15 のものです。

☆ アクセス

〒 842-0033 佐賀県神埼郡吉野ヶ里町豆田 2103-13
 TEL.0952-51-1776 ・ FAX.0952-51-1767
 携帯 090-1920-7894
 URL <http://www.access-pcdoc.jp>
 E-mail kazu@access-pcdoc.com

家庭教師

浪越建男（三豊市開業）

昭和 56 年春、私は大学を再受験し、長崎で学生生活を送ることになった。さだまさしの歌った「精霊流し」がヒットし、彼が深夜放送で長崎を語ることで、この町にあこがれ、受験をした者も少なくなかった。

長崎は坂の町である。階段と坂道が交互に繰り返す細道の先にある下宿に住むと、階段の先はバイクも入れず、徒歩ということになる。下界に下りて、忘れ物に気付いた時の絶望感は、今でも忘れられない。

大学生活が始まった。浪人生活から解放された貧乏学生が集まれば、安酒か、麻雀か、そして話題のひとつはアルバイトである。毎日学生課で、アルバイト募集の案件を確認するが、好条件のものは競争率が高い。家庭教師先を見つけるコツは、新聞の読者欄を利用し、バイクを持ち、少し地理的条件の悪い所でもいくことと、教えられた。

友人たちの苦戦を横目に、秋頃には同級生から、男子高校生の家庭教師先を紹介された。その後、十数名の家庭教師を引き受けることになる。新聞の読者欄が役立つこともあれば、兄弟や友人も、ということもあった。

その中で今でも忘れられない高校生がいる。ある日、新聞の欄を見たという電話があった。面談にいくと、「父親が他界する時、息子を九州大学に行かせてほしいと言い残した」「物理の定期テストなどは、赤点です」と母親が口にした。高校 1 年生の息子は、それに関して何も言わず、俯いていた。そして「厳しくするけど大丈夫かな」という私の言葉に頷いた。教えてみると、すぐ手応えを感じた。それから毎週 4 時間、家中に私の言葉が響いて、生徒はそれに食らいついてくるように、鉛筆を走らせていた。浮かぶ涙も見ぬふりをした。元々素養があったのだろう。成績はみるみる上昇し、最終的に九州大学と東北大学に合格、念願の九州大学に入学した。

それから三十年後、息子たちが同じ年齢になり、何かのきっかけで、自分の子の家庭教師をすることになる。「授業料は高いよ」と軽口を叩きながら、できるだけ優しく教えようとするのだが、言葉の端々に昔の名残が出てしまう。その度に思い出すのは、当時涙を浮かべながら机に向かう、あの高校生の姿だった。

今年受験を終え、大学に入学した息子に「お父さんは学生時代、特に厳しく勉強を教えた高校生がひとりいた。なぜあんな言葉を浴びせたのか。若かったのかな。自分の子どもに教える度に思い出したよ。恨まれているかもしれんな」と話してみた。すると「恨んでないと思う。目標の大学に合格した。そこで人生が変わることは、受験に真剣に取り組んだ人には解る」と、真面目な答えが返ってきた。その息子が家庭教師のアルバイトを始めたらしい。その様子を覗いてみたい気がする。

合格祝いを届けた後、彼とは一度もあっていない。その後どんな人生を送っているか、飲みながら聞いてみたい。あの努力に応えるような幸せな生活を送っていればと思う。

ヘルスケア フォーラム

歯科衛生士育成プログラム基礎コース

2016年11月19・20日 2017年1月8日・9日 太陽歯科衛生士専門学校

1日目



田部井 香 (歯科衛生士・
おかもと歯科医院)

今回、歯科衛生士育成プログラムに参加し、ヘルスケア歯科診療を行うにあたって何が大切かをわかりやすく講義していただいととても有意義な時間になりました。

1日目午前中の講義では、ヘルスケア歯科診療の実際を診療の流れや患者の症例などで説明していただき、特に患者の口腔内の記録をしっかりと残すことがとても大切だということ学ぶことができました。今回2日目に実習を行った歯周検査や、口腔内撮影は患者に口腔内の変化を説明する示すことのできる大切な記録でもあるので技術をしっかりと身につけないといけないなど改めて思いました。

午後はコミュニケーションについての講義をしていただきました。私は、歯科衛生士になって約8ヵ月しかたない新人で、知識も技術も半人前なので、患者とのコミュニケーションはどうとればよいのか、どこまで踏み込んでよいのか分からず悩んでいました。この講義を通し

て他の受講者の方の話聞く「聞き役」に徹するという練習を行い、患者の話をきちんと聞く姿勢の大切さ学ぶことができました。また、問診をとる練習を行って、患者になるべく話しをさせる「開かれた質問」をすることが大切ということ学びました。それにより情報を多く聞き出せ、患者の生活背景や隠れた主訴なども聞き出せる可能性があるため、問診をとるときに活かしたいと思いました。また、この講義では他の受講者の方とも交流ができたので、とても充実した1日になりました。

今回の学んだことはすべて、患者との信頼関係につながる事なので学んだことを活かして患者やスタッフとのコミュニケーションを大切にしていきたいと思いました。また、この基礎コースを通して知識や技術を学ぶのはもちろん、たくさんの方の講師の方との交流し、いろいろなことを吸収して、人としても成長できるように頑張りたいと思います。

2日目



大西聡美 (歯科衛生士・
たるみ歯科クリニック)

歯科衛生士2年目の私は、スキルアップを図りたいと思い、今回、歯科衛生士育成基礎コースに参加しました。

私が勤めている歯科医院は、ヘルスケア歯科学会の認証診療所で、ヘルスケア認定歯科衛生士の先輩が7人おり、みんな私の憧れの存在です。この2年、先輩



方に新人教育を受けながら、日々の診療に取り組んできました。

基礎コース2日目は、口腔内写真撮影実習や歯周組織検査実習を行いました。講師の方とコミュニケーションが取りやすい環境で学ぶことができ、収穫が多く、有意義な時間を過ごせたと思います。

口腔内写真撮影実習では、難しい部位を撮るコツや、唾液の飛ばし方など、とても熱心に教えていただき、できるようになるまで、何度も練習しました。1回1回確実に写真を撮れるように、もっと練習が必要だと思いました。

歯周組織検査実習では、プローブの持ち方や、ポジションなどの、基礎から徹底的にご指導いただきました。今までできていたつもりになっていたのですが、当たり前なのが疎かになっていて、実力不足を目の当たりにし、とても悔しく心が折れそうになり、落ち込みました。しかし、他院の歯科衛生士と交流を持ち、同じ認定歯科衛生士を目指す仲間ができて、モチベーションがあがり、私の心に火がつかしました。今まで以上にもっと練習をしないと上達しないと感じました。憧れの先輩方に少しでも近づけるように、もっともっと頑張りたいと思います。

ヘルスケア型の診療では口腔内の変化を時間軸で診ていくことが大切だと思います。口腔内写真も歯周組織検査も過去の記録と比較して、変化の有無や、長期的に口腔内の状態を診ていくための非常に大切な資料となるので、正確な写真撮影やポケット測定ができなければなりません。

ヘルスケア認定歯科衛生士になるために、技術・知識をしっかり理解し、試験





ではよい結果が出せるように、頑張りたいと思います。

3日目



吉田 萌 (歯科衛生士・沼澤
デンタルクリニック)

この日はフッ化物とう蝕、歯周病についてのお話とシャープニングの実習を行いました。

小児う蝕はここ30年で大幅に減少しています。一番の要因はフッ化物入り歯磨剤が普及したということです。普段当たり前のように何気なく使用している歯磨剤ですが、その効果は絶大で、改めてフッ化物の重要性に気づかされました。

歯磨剤の種類も多様化しており患者さんの知識もあがってきているので、フッ化物についての正しい知識と情報を常に提供できるようにしなければいけないと思いました。

う蝕に関して、日本ヘルスケア歯科学会で推奨しているICDASについて学びました。

現在多く使用されているう蝕判定基準のCO、C1～C4よりも、特に初期う蝕の白斑について細かく分類されています。う蝕が形成される前に、より細かい診断ができることで予防ではなく治療という意識をもつことで患者さんのモチベーションにも繋がると思いました。初期う蝕の診断とフッ化物の応用で一人でも多くのカリエスフリーをつくっていきたいです。

歯周病に関して、特に問題視されているのは喫煙によるリスクだと思います。



臨床においてもタバコによる歯周病の重症化は明確で、歯科衛生士としてどうにか改善していきたいとは思いますが、禁煙指導はとても難しいものだと思います。

患者さんのQOLの向上をサポートする立場として患者さん自身がどうありたいかを明確にさせそこに導いていけるように、技術だけでなくコミュニケーション能力もとても重要だと学びました。

技術面ではSRPを的確に行うために、自分の使うスケーラーをしっかりと下準備しておく必要性を学びました。スケーラーのシャープニングはとても難しいです。頭では理解していても、思うようにうまくいきませんでした。習得には時間がかかりそうですが、しっかりと練習をして、患者さんにも自分にも負担が少なく治療できるようなスケーラーを準備していきたいです。

ヘルスケア育成講座の講義や実習は毎回とても勉強になります。更なる知識や技術を身につけて臨床の場に臨み、患者さんの口腔の健康をサポートできる歯科衛生士になりたいと思います。

4日目



北原結奈 (歯科衛生士・
デンタルクリニック沼澤)

この日の最初は白水貿易の方に超音波スケーラーについて解説していただきました。最初に基本的なことを確認しました。分かっているつもりでしたが、結構分かっていないことも多くあり、とても勉強になりました。その後実際に超音波

スケーラーを使用して実習を行いました。空き缶を使って、超音波チップの先端・背面・側面とすべての面を当ててみました。側面以外空き缶にとっても傷が付き、特に先端を当てたところは穴があきそうなくらい深い傷ができていました。歯に当ててる時もこんなに傷つけてしまうということを実際見ることでできたので普段から気をつけたいと思いました。その後、抜去歯についている歯石をとりました。今まで結構歯面に強く当ててしまっていて、振動でおとすことができてなかったということが分かりました。その後、歯周基本検査の模擬試験を行いました。1/4顎でしたが、時間を計って本番と同じような感じで行いました。本番のような雰囲気はかなり緊張しました。時間内に終わることもできなかったし、ほかにもウォーキングの幅が大きくなってしまふところがあり合格できなかったのも、教えてもらったことをしっかりと練習して本番で合格できるようにしたいです。

午後はPMTCの実習を行いました。染め出しをしてラバーカップやロビンソンプラシ、フロスを使ってきれいにしていきました。ラバーカップの縁をしっかりと歯肉辺縁に挿入するように、隣接面に角度を合わせていくのは難しかったです。ラバーカップを当てる方向がなかなかうまくできなかったのですが、講師の方にアドバイスをもらいながら、以前より上達したように思いました。1回落とした後2度染めを行いました。一回こすって落としても落ちきっていない部位もあるので2度染めして確認して、もう一度落とすことでしっかりとプラークなどを除去できるのだとわかりました。ラバーカップだけで落ちないところは他の道具を使って落とし残さないようにしたいと思いました。1日でさまざまな実習をし、普段の診療で気をつけることなどが勉強できました。



大阪ワンデー

2016年12月4日 千里ライフサイエンスセンター

ほんまもんに触れた1日



枘富由佳子（徳島県板野郡
枘富歯科医院副院長）

会場の千里ライフサイエンスセンターは朝から熱気にあふれていました。『ほんまもんのホームデンティストが目指すチーム医療』を主旨に掲げたセミナーに集まった人々にとって1日は一瞬で過ぎ明日からの活力になったように感じます。

午前まず最初に丸山和久さんがヘルスケアの概念を示され、ただ単に「予防歯科」ではないという話からはじまりました。その後、藤木省三さんによるう蝕と歯周病の病因論についてでした。昨年のヘルスケア実践セミナー（宿泊型）をうけた私は「こういうことを歯科医師になる前の学生時分に学びたかった！」と強く感じました。どちらも何度聞いても勉強になり感銘をうけます。そのセミナーからはほぼ1年、当院は少しずつヘルスケア型診療所になるべく小さなことから改革をはじめ、今回やっとスタッフ全員でこのワンデーをうけることができました。

午後はヘルスケア型診療を目指し昨年の宿泊型セミナーから一緒に歩みをはじめた医院の皆さんのプレゼンでした。この一年の試行錯誤や体験談を包み隠さず教えていただき、共感することが多く、



これがヘルスケア型を同じように目指す人にとっては貴重な時間なのだと感じました。

そのあとは認証診療所の西すずらん台歯科とたるみ歯科の発表でした。西すずらん台歯科はウイステリアを使ってのデータ管理とそれをいかに院内で管理しているか、日々の診療に落とし込もうとされていて、院内のシステムにもまたそれを運営していくスタッフの方々にも驚きました。また、たるみ歯科医院のスタッフの方の話では認定歯科衛生士になるまでには紆余曲折ありながらも個々として、チームとして成長していった経過を見せてもらい励みになりました。目標とする医院でも最初は口腔内写真を撮ることも困難だったことや、どの医院も少なからず何らかの山や谷を乗り越えその位置にあることを感じ取れる、また疑似体験させていただき進む方向や目指すことが明確になる時間になったと思います。

一緒に参加したスタッフもやはり同じスタッフ同士の経験談（それも特に苦労談）はすごく身近に感じるらしく「わたしたちもできる、がんばれる」と感じたようです。うれしいことに帰ってきてから歯科衛生士で認定をとりにかかせてほしい、また歯科助手も「ウイステリアをいれましょう、はやく」といい、院長も先延ばしにしていた認証歯科診療所への歩みを「僕も来年には頑張ります」とつられてミーティングで言うことになり、このセミナーは「同じ方向性を院内が向いていくきっかけ」になった一日になったと思います。

最後に高木景子さんがヘルスケアをやるにあたって皆が感じる葛藤やつぶやきをうまく格言のようにまとめてくださっていて、次に向かっていけるように心の整理をさせてくれるようなスライドでセ



ミナーが締めくくられました。ほんまもんに触れ続けることができた貴重な1日でした。

「ほんまもん」の新しい芽



岡本昌樹
（栃木県栃木市開業）

「ほんまもん」…気持ちにじっくりくるいい言葉ですね。本物の…、真実の…、と書くと少し角張った話しになりますが、そういう物差しじゃなくてほんとにいいことをやっているんですよ、という雰囲気伝わってきます。

さて何が聴けるのだろうかとう早起きをして千里まで行って参りました。

今回、私が楽しみにしていたプログラムの一つにヘルスケア実践セミナーを受講されて今まさにはじめましたという医院のみなさんの発表がありました。

「神戸を日本一の健口寿命地域に」、
「健康な方をより健康に！」、「デンタルフリーを目指して」等いずれの医院も熱い思いを時間いっぱい発表されていました。

何をしたらいいのかわからないが、自分の診療スタイルはこれしかないセミナーに出てはメモをとり、懇親会では質問魔になって、診療室に帰って取り組んでみるがうまくいなくてまたセミナーに行く、そんな紆余曲折していたかつての自分を思いだして強く頷きながら聴かせていただきました。

今回の新しいほんまもんの医院のみなさんの発表の中で、私がとくに印象に残ったことは、地域の先輩方の手厚いサポ

ートについての話しでした。歯科衛生士の大本幸加さん、落合真理子さんをはじめとするみなさんの医院に向いての親身の指導、そして年齢の近い貴分的存在の中本知之さんのアドバイスはどれ程新たにに取り組む医院の迷いを減らし、早く結果に導いたか想像に難くありません。

藤木省三さん、高木景子さん、丸山和久さん、樽味寿さんはじめ兵庫ヘルスのみなさんの明確な目標をもった運営が実を結んできていることを実感いたしました。

しかし、羨ましがってるだけじゃいけないんですよ、高橋啓さん。はい、東日本でもほんまもんの新しい芽を育てていきましょう。

私も負けてられない



大久保夏子（歯科衛生士・
おおくぼ 歯科）

小さい子ども2人を主人が子守りしてくれるとのことで、参加することができました。主人には、とても感謝しています。

丸山和久先生の、端的にまとめられた面白いお話で、ワクワクしながらスタートしました。

藤木省三先生の病因論のお話は、歯科助手、受付の方が聞いても分かりやすい内容でした。お話の中に、大西歯科の症例も出てきました。大西歯科の症例を見る度に、私もこんな症例を出せるようになりたいと強く思います。こんなに治る、治せる技術を早く身につけないといけないと痛感します。とても参考になる、技術向上の方法までお話していただきました。そして、スライドをプリントで用意してくださっていたので、復習ができるのも、ありがたかったです。病因論のお話を聞けたことで、また改めて知識の整理をすることができました。

今回のセミナーで私が一番楽しみにしていたのが、ヘルスケア型診療を始めた

医院の発表でした。6医院それぞれ、まったく違う内容でしたが、どの医院にも共通するのが、患者さんの歯を守りたいという熱意でした。歯科衛生士の知識技術を向上させるため、セミナーに参加し、院内に講師を呼んで研修会をしたり、中には基礎コースに参加され、もうすでに認定を取得されている方もいらっしゃる、すごいスピードで発展されている医院もあり、頼もしい仲間が増えていくことに喜びを感じました。認定歯科衛生士の先輩方が、院外で活躍されていることも発表にあり、私も負けていられないと思いました。発表の中で、驚いたことは、エックス線写真を見て、トレースをしてから初期治療している医院があることでした。イラストで、細かく丁寧に描かれているのは、とても分かりやすいと思います。トレース作業する時間を確保していることにも、驚きました。患者さんに選んでもらったアロマの香りをエプロンにスプレー、スタッフにスライドでヘルスケア宣言された先生がおられたことなど、色々とおもしろいお話を聞くことができ、とても楽しかったです。

各医院それぞれ、一生懸命取り組まれていて、これからの発展が楽しみになりました。認証診療所を目指していると宣言されている先生もいらっしゃいましたし、きっと、どの医院もヘルスケア型診療所として活躍されるはずですよ。そして、また、どこかで演者として登場されることと思います。



西すずらん台歯科クリニックからは、自医院の振り返りをするためのウイステリアの使い方が紹介されていました。10代の患者さんの来院を促す取り組みも発表されていて、どこの医院も悩みは同じであること、共感できることが多々あると感じました。たるみ歯科クリニックからは、急発展し、勤務するスタッフが、どんどん成長していることを、過去を振り返りながら、お話されていました。認定歯科衛生士が大半を占め、医院発展のために、スタッフのみで行動していると聞き、私も毎日の業務に追われているだけでは、いけないと反省させられました。

最後は、高木景子先生の応援メッセージに癒されました。きっと励まされた方も多かったはずですよ。

セミナーに参加することは、学ぶことも重要ですが、仲間と顔を合わせることも重要なように思います。何人もの方と挨拶し、お友だちのように一緒にお昼ご飯を食べてくださった先生もいらっしゃったりで、とても楽しい1日を過ごすことができました。また、みなさんにお会いできること、楽しみにしています。



歯周組織検査相互実習研修会

2016年12月4日 太陽歯科衛生士専門学校

感想



菅野美咲（歯科衛生士・
医療法人 蒼岳会）

歯科衛生士3年目と経験が浅く、まだまだ知識・技術の向上が必要と感じることが多いため、前回の口腔内写真相互実習と同様、自身のスキルアップを目的に参加しました。

午前中は、正しい歯周組織検査を行うための基本を学びました。歯周組織を絵で描き、その構造や特徴を理解することで、正確な歯周組織検査につながることを体感できました。また、固定や執筆状変法で把持するトレーニングも行いました。歯周プローブのみならず、他のインスツルメントを使用する際にも、この固定や把持の方法を理解することは大切であるため、このトレーニングでのポイントを念頭におきながら、午後の実技実習に挑みました。

午後に行われた実技実習では、ポイントとなる「ウォーキングストローク」やコルの部分の測り方、最後臼歯遠心の挿入等を中心にデモンストレーション動画を視聴した後、相互で実習を行いました。インストラクターに客観的かつ丁寧に評価をしていただいたため、容易に改善点を見つけることができたと同時に、いつも時間がかかってしまう部分の見直しことができました。今後も日々の練習の積み重ねで、確実な歯周組織検査ができるようにしていきたいと思います。

歯周組織検査は、ヘルスケア診療を行ううえで、重要な資料の一つです。その検査が、患者さんに苦痛を与えず早く正確に行えることは、歯周治療が成功に近づく鍵であることを実感しました。今後は改善点を修正し、今よりもさらに患者さんの口腔内を深く知り、質の高い治療に繋げていきたいと思います。また、本研修会で学んだ固定や把持方法のトレーニングや歯周組織検査のポイントは、これから入職してくる後輩歯科衛生士にも伝えていき、クリニック全体で技術の向

上ができるように努めていきたいと思えます。

感想



大石弥周（歯科衛生士・
武内歯科医院）

講義では、歯周組織がどのような構造になっているのか、歯周組織検査の目的や動画を用いてプローブの挿入角度の確認を行いました。改めて紙に歯周組織の図を描いてみると、歯周組織がより明確にイメージできるようになり、プロービング圧に細心の注意を払う必要性を実感しました。グミを使ったプロービング圧の確認では、圧が強すぎるとグミにプローブを刺してしまうので、結果もわかりやすく印象的な練習でした。ウォーキングストロークの練習では、大小様々な形の円をなぞり、自分のプローブの持ち方は、指が固くなり、力が入ってしまっていることを自覚しました。認定歯科衛生士のスタッフの方々に、自分では気がつかないことを丁寧に教えていただきました。他院との相互練習で、他院のやり方や取り組み方、各方面からの情報を得ることができました。同期だけではなく、先輩後輩と話すきっかけとなる場になり、交流としても楽しく、良い刺激のあ



る機会でした。

午後の実習では、認定歯科衛生士のスタッフの方々が1ユニットに1人ずつ付き、実施している様子を近くからみただきプロービングを行いました。正しい姿勢から、鏡視、歯の形態を意識したプロービングの角度等、細やかにチェックしていただきました。最後には、認定歯科衛生士検定の模擬試験をし、研修の総まとめとなりました。チェック用紙で評価もいただき、客観的に自分が今どんな状態であるのかを振り返ることができました。1日がぎゅっと詰まった濃い日となり、今回参加できたことに感謝しています。

定期的に継続し、正確な値で歯周組織検査を実施するためには、患者さんに苦痛を与えないことはもちろん、姿勢からプロービング操作まで確認項目はたくさんあります。今日受けた指導や刺激を元に、これからの診療に取り入れていきたいです。



東京ヘルスケアグループ 診療所づくりミーティング 2017

2017年1月29日 東京八重洲ホール



報告



丸山吉弘（深谷市開業）

2017年1月29日（日曜日）東京八重洲ホールにて、THG 診療所づくりミーティング 2017 が開催されました。3月下旬

並みの暖かい陽気のもと、32名の参加者を得ての開催でした。臨床年数で5年未満2名、10～15年1名、15年以上3名の計6名の方に「今、私の診療室で取り組んでいること」をテーマとして発表して頂きました。

臨床5年目の丸山修平氏は、分院管理者として、理事長の「歯医者は削るのが



仕事だ！ 予防なんかいらない！」という方針と格闘しながら、4年間のヘルスケア型転換の経緯について、同じく5年目の木村昌太郎氏は、同じく分院管理者として患者さんのデンタルIQ向上に向けた1年間の取り組みを、星原如子氏は、開業後10年過ぎて滅菌体制再構築のための院内改装と滅菌コストの効率化につい

てお話ししました。そして午後は、ヘルスケア歯科研究会設立当初からの会員である3名の方々の発表です。渡辺勝氏は、開業10年過ぎにユニット4台から8台の医院への移転拡張し、その後のスタッフ総入れ替え等経験し現在に至る経過を、岡本昌樹氏はヘルスケア診療を行ううえで、大切な役割を担う歯科衛生士の確保という課題を、衛生士学校との良好な関係を築いたことによって安定して新卒者を採用できるようになった経緯、古仙芳樹氏は「健康を創造する予防歯科」を理念として、食育・姿勢の大切さを分かりやすく、楽しく引き込まれ

るように話してくださいました。各発表後のディスカッションも、発表者・聴講者双方からの質問・答弁が切れず15分の時間が足りなく感じるほどでした。そのままの勢いで居酒屋に移動し、最年長・80歳現役の鈴木正臣長老の乾杯の音頭の後、懇親会が始まりました。お互いに気心も知れた仲間と、医院の現状・課題など情報交換に盛り上がり、予定時間を30分オーバーしてお開きとなりました。関東圏でヘルスケア診療に前向きに取り組みたい方、東京ヘルスケアグループに入会しませんか。若い仲間と優しい先輩たちが待っています。



第12回ヘルスケア・ウエストスタッフ研修会

2017年1月29日 カンファレンス ASC 会議室

報告



澤幡佳孝（熊本市開業）

グループワークの試み

ヘルスケア・ウエストスタッフ研修会「医院みんなで取り組むリエスマネジメント」を開催致しました。講師に日本ヘルスケア歯科学会副代表・神戸の藤木省三さんをお招きして、グループワーク（以下GW）形式で実施しました。

藤木さんの講話を聞き、そこから参加者皆で我々にできることを考え、そして実践していくことを目指して、今回の研修会の企画をいたしました。おかげさま

で75名の方にお越しいただきました。ありがたい限りです。ヘルスケア・ウエストでは2年前より、研修会の形式にGWを採用してみようと検討をしてまいりました。豊島義博先生に福岡までお越しいただき、ウエストの役員のみで、まずは「GWとはなんぞや？」というところから学び始めました。

昨年1月には豊島先生を再度お招きし、GW形式の研修会「レベルアップのためには？」を実施しました。これがウエストでのGW形式研修会の始まりです。昨年度は福岡でも大雪に見舞われたため、本年度の開催は天候がとても気がかりでした。幸いなことに曇り空程度でしたので、多くの方にお越しいただくこ



ととなりました。本年度が研修会としては2回目のGW形式でのセミナーとなりますが、まだまだ慣れないもので、不安は尽きませんでした。講話とリエスマネジメントに関するGWを実施し、リエスマネジメントに関する「パンフレットのベースになるようなもの」を時間内に作成するミッションが与えられました。時間内に果たしてできるのかどうかということが、正直なところとても心配でした。開催前から多くの不安を抱えてのスタートでしたが、実際には蓋を開けてみる

と時間に余裕を持ってプログラムを無事に終えることができました。

藤木さん、実行委員長の長岡 守さんの采配に感服いたしました！

講義で答を言わないように…

当日の様子を少し詳しく書いてみたいと思います。

冒頭にて長岡さんのご挨拶の後に、アイスブレイク。「私の名前は……です。実は私は……」というお題で各班ごとに班の中で、自己紹介をしていきました。具体例として長岡さんから「実は、ケンちゃんと呼ばれていた」という言葉に会場の緊張感がとれ、雰囲気がとても和みました。アイスブレイクの後に藤木さんの講話のスタートです。まずはカリオロジーのベースとなるお話で参加者の共通理解を深めました。

初めてヘルスケア・ウエストに参加した方もおられましたので、とてもいい機会だったと思います。カリオロジーの基本に続いて、カリエスリスクに関する内容、カリエスリスクにはいろいろありますが、それは歯に関するリスク、歯列や口腔に関するリスク、子どもたち自身に関するリスク、家族や社会環境に関するリスクなどがあります。それぞれのリスクは現在におけるリスクで、固定したものではなく、各年代において移り変わっていくものであり、それぞれのリスクに

ついて考えて、対処していかなくてはならないということ、そして、将来起こりうるリスクについて前もって来院者に私たちが伝えていくことがプロとして大切であること。これらは、歯科医師だけではできず、各職種が協力して医院全体で取り組んでいくことがカリエスマネジメントの成功につながることを学びました。

講義の後のGWで、各班でカリエスリスクについて話し合わないといけないので、藤木さんが講義の中で答えをできるだけ言わないようにと、とても気を遣っておられました(笑)。藤木さん、ご配慮ありがとうございました。

午前中のGWはA班～I班までの九つの班、午後はさらに二つのドクター班が加わり11の班で実施されました。

午前中は、小学生以下のカリエスリスクの班と中学生以上のカリエスリスクの班の二つのグループで議論をし、午後には各班で議論したことをベースに、スタッフ班はパンフレットの作成を、ドクター班ではマニュアル作りを実施いたしました。

スタッフの意見に、とても考えさせられたGWの様子を詳記いたします。私がチューターとして関わったE班を中心に書かせていただきます。

E班は中学生以上のカリエスリスクを考えました。中高生以上のカリエスリス

クに関してポストイットで考えを出し、それらを項目ごとにグループ化してまとめ、考えをシェアしました。それらの各リスクに関して、誰が担当して対処していくかまでを決めていくことで、実際に実施できるところまで考えを深めました。これらの一連の取り組みによっていろいろなことが見えてきました。なかでも興味深かったのは、中高生にとって「買い食い」による食生活の変化があることと、口腔衛生に関する教育に接する機会が学校でも家庭でも極めて少ないということでした。

中高生ともなると、昼食に給食がなくなり、食堂での食事やお弁当での昼食、コンビニで買って食べる昼食に、様変わりします。また育ち盛りでよくお腹も空くので、部活帰りや、寄り道での買い食い、また帰宅してからも塾や受験勉強、スマートフォンでのサイトの閲覧やSNSの利用など夜活のために夜食を食べる機会も増え、口腔内の環境も悪化してきます。

一方で、口腔内の成長に伴い様々なリスクが登場してきます。問題なのは、それらを中高生自身や両親には知らされていない、知らない状況にあること、もしくは知っていても行動に移せないことです。小学校までは口腔衛生に関する指導、特にブラッシング指導を受ける機会が多いかと思いますが、中学生以上に関しては、それらの教育の機会が一気



に減ってしまう傾向にあります。

これを改善するためには、中学校や高校の学校医を中心に教育の場を作ることが大切ではないかという結論に達しました。特に歯科医師が率先してそういう場を作り、スタッフとともに「積極的に出向いて行く必要がある」との意見をスタッフから得られたときには、とても考えさせられました。

院内に継続してメンテナンスに来院している方の場合には、中学生になる前までの、特に幼児期の、両親が子どもの口腔の健康に対して関心が強い段階から、前もって情報提供をしていくことが効果的ではないかという考えに至りました。

参加者皆が笑顔になることを実感

今回の研修会全体を通してとても印象的だったのは、参加者みんなが考え、それを形にする能動的なワークをすることで、参加者皆が笑顔になることを実感したことです。またそれを発表することでお互いに共有することができたこと、そしてさらに学びが深化したことです。参加者の満足度もかなり高かったと思います。

来年度以降のGW形式が楽しみになってきました。ヘルスケア・ウエストでは今回の研修会で、みんなで議論した内容

を活用できるように、現在まとめ作業を実施しております。実行委員長の長岡さんを中心に、何かしらのかたちで皆様にご報告できるかと思えます。どうぞ期待、お楽しみに！

最後に、今回の実行委員長の長岡さん、講師の藤木さん、ヘルスケア・ウエストのGWの礎を築いてくださった豊島先生、福岡歯科大学の内藤 徹先生、加藤智崇先生、この場をお借りして感謝を申し上げます。ありがとうございました。



ヘルスケアミーティング2017 ポスター発表募集

担当 岡本昌樹

2017年10月8・9日(日・月祝) 秋葉原コンベンションホール(東京・秋葉原)

いつも診療で忙しいなか、たくさんの出展をいただきありがとうございます。

ポスター発表は、会員の皆さんが自由に日常の成果を発表できる貴重な場所です。今年は例年通りのテーマに戻り、皆さんの日常での発見や気づきを多くの人と共有していただきたいと思えます。

多数のご応募をお待ちしています。

1. テーマ

①症例発表 ②自由テーマ

①、②のいずれかを選択してください。いずれのテーマも本会の活動に沿った内容でしたら詳細は問いません。

2. 参加資格

当会正会員診療所及び個人単位(正会員)

発表者は発表当日必ず出席してください(10月9日(月祝)午後)

3. 発表方法

前回同様、ポスター展示のみとします。

1) ポスターの作製について

ポスターのサイズ

最大 W900×H2100mm 最小で模造紙大 W728×H1030mm

診療所名、発表者はこのスペースに含まれます。掲示は**ポスターのみ**とします。机の用意はありません。ポスター下の床に物品やパンフレットを展示することは禁じます。

2) 事前抄録について

プログラム用事前抄録(400字程度)を提出してください。

4. 表彰

例年通り、参加者による投票および審査員による選考により各賞を授与。

※ご質問、お問い合わせは下記までお願いします。

e-mail : masaki@okamotoshika.jp (岡本昌樹)

第1回 東京ベーシックセミナー

2017年5月21日(日) 10:00～

東京八重洲ホール 地下ホール (東京都中央区日本橋3-4-13 新第一ビル)

あなたがしたい診療は、どんなものですか？

私たちには、自信を持って勧めたい診療スタイルがあります。

1日で
ヘルスケア型診療が
わかる

10:00～10:05	オリエンテーション	
10:05～10:50	患者さんが通い続けてくれるファミリーデンタルオフィス	田中正大
10:50～12:20	ヘルスケア型診療に必要なカリエスとペリオの知識と実践	杉山精一
12:20～13:20	昼食休憩	
13:20～14:20	診療の流れについて	蓮見 愛 (歯科衛生士・杉山歯科医院)
14:20～14:50	ヘルスケア型医院にしてみても	林 浩司
14:50～15:20	明日からがんばろう	岡本昌樹
15:20～16:00	質疑応答	

◆参加費

歯科医師	会員	8,000円
	非会員	12,000円
スタッフ	会員	3,000円
	非会員	6,000円

□お申し込みは…

日本ヘルスケア歯科学会事務局まで FAX または email にて

Fax 03-3260-4906 center@healthcare.gr.jp



第14回 認証ミーティング

2017年7月2日(日) 11:00～17:10 (お弁当有)

千里ライフサイエンスセンター 6F (大阪) 豊中市新千里東町 1-4-2 (<http://www.senrilc.co.jp/index.html>)

【午前】

- 日本ヘルスケア歯科学会について (杉山精一)
- 認証診療所とは (藤木省三)
- 認証におけるポイント (斉藤 仁)
- ランチョン企画「ランチのおじゃま」 (秋元秀俊, 杉山精一, 藤木省三)

参加者の皆さんのお弁当の時間を利用して、認証およびヘルスケア型の診療に関して、フロアからちょっと「聞いてみたいこと」を拾い、回答できそうな人を指名して答えていただきます。

【午後】

- 現在、5つの診療所のエントリーが予定されています。
- 各々のプレゼンテーションの前に5分間のエントリー医院の紹介(患者アンケート調査結果報告を含む)、20分間のプレゼンテーション、10分間の質疑応答を繰り返し。最後に結果発表と総評、外部審査員の方からのコメントをいただきます。
- 17:00より別室で懇親会を予定しています。

■ 認証申請：3月末日 締め切り (2017年度認証ミーティングの認証診療所)

認証ミーティングのエントリーには、認証申請の後、患者アンケート調査が必要です。この調査には、配布から回収および集計を考慮すると3ヵ月近くを必要とします。このため、3月末日をもって認証申請を締め切ります。心づもりのある方は、お早めに申請をしてください。